

つまようじで耐震性競う

高校生が、つまようじと木工用接着剤で作ったタワーの耐震性を競うコンテストが26、27日、熊本市西区の崇城大であり、熊本県内外の25校、65チームが参加した。高校生にもものづくりと建物の耐震性に関心を持ってもらおうと、同大工学部建築学科が毎年開いており、13回目。

建築系学科がある学校が主に参加した26日は、6校17チームが参加。2人一組で数百本のつまようじを使い約2カ月で制作した、重さ約80グラム、高さ約50センチのタワーを持ち込んだ。コンテストでは、タワーに500

崇城大でコンテスト

グラムの重りを一つ積むごとに、周波数の異なる2種類の振動を加え、タワーの耐震性を測った。重さと振動に耐えられずにタワーが倒れると、会場からは落胆の声が漏れた。

熊本工業高3年の井戸智蓮さん、東奈那さんの作ったタワーが、3・5キロの重りと振動に耐え、優勝した。2人は「つまようじ3本を束にして作った2本の柱が、タワーを支えてくれた」と勝因を語った。

普通学科が主に参加した27日は、八代高2年の井上友愛さん、森一華さんが優勝した。

(石井颯悟)